

令和3年度 第1回柏原市総合教育会議議事録

日 時	令和3年12月27日(月) 午後2時から午後2時45分
場 所	大会議室(本館4階)
出席者	(柏原市総合教育会議構成員) ○市長 富宅 正浩(議長) ○教育委員会教育長 新子 寿一 ○教育委員会教育長職務代理者 山崎 裕行 ○教育委員会委員 田中 保和 ○教育委員会委員 近藤 温子 ○教育委員会委員 西村 弥生子
欠席者	○なし
傍聴者	○なし
関係者	○副市長 松井 久尚 ○政策推進部長 市川 信行 ○政策推進部総合政策監 小林 一裕 ○教育部長 福島 潔 ○教育部教育監 中平 好美 ○教育部教育総務課長 栗田 聖子 ○教育部教育総務課課長補佐 井上 敦 ○教育部次長兼指導課長 石田 智 ○教育部学務課長 井原 啓裕
事務局	○政策推進部次長兼企画調整課長 井上 昇 ○政策推進部企画調整課主任 藤井 智恵
会議次第	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事 (1) ICT機器の運用状況について (2) いわゆるコロナ禍における学校運営について (3) 支援教室について (4) 教員について (5) 学校施設の老朽化について (6) 教育振興基本計画について (7) その他 4 閉会

議 事

<p>(事務局)</p>	<p>【1 開会】</p> <p>皆様お揃いですので、今年度第1回柏原市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、ご多忙の折にもかかわらず、ご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めます柏原市政策推進部企画調整課の井上です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は委員の皆様にご出席いただいております。</p> <p>本会議は、柏原市総合教育会議運営要綱第3条第4項にて規定しております開催要件、「市長及び教育長等のうち1名以上の出席による」を満たしておりますので、本会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>それでは、開催にあたりまして、富宅市長よりごあいさつをお願いします。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>【2 市長あいさつ】</p> <p>皆様、改めまして、こんにちは。ただいまご紹介いただきました富宅でございます。</p> <p>本日は、令和3年度第1回の総合教育会議にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>また、平素は柏原市の教育環境の充実のためにご尽力いただいておりますことを改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。</p> <p>皆様もご承知の通り、昨年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大ということで、本当に我々の生活が大きく変化しております。</p> <p>その様な中ですが、子どもたちにはできる限り、これまでと変わらない学校生活を送れるように教育委員の皆様をはじめ教育委員会、そして教職員の皆様には本当にご尽力いただいておりますことを感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>現在は、変異株であるオミクロン株が発生しておりまして、予断を許さない状況が続いておりますが、これまでの経験を踏まえ、我々も勉強をしておりますので、ぜひ一丸となってコロナウイルスに負けないように、子どもたちに影響がでないように一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ本日もよろしくお願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>【3 議事】</p> <p>ありがとうございます。それでは、次第の議事に入らせていただきます。</p> <p>会議は、柏原市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長が議長となります。</p> <p>ここからの会議の進行をお願いしたいと思いますので、市長よろし</p>

	<p>くお願いいたします。</p>
(富宅市長)	<p>はい。それでは、運営要綱に基づきまして、議長を務めさせていただきますので、皆様よろしく申し上げます。</p> <p>この総合教育会議は、私と教育委員の皆様との会議の場ですので、出来る限り委員の皆様からのご意見を多くお聞かせいただけたらと思っています。</p> <p>そして議事に入る前に、事務局より傍聴に関する説明をお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>はい。ただいま、傍聴の方はおられません。傍聴席10席ご用意しておりますので、10名に至るまで傍聴を認めていただけますでしょうか。</p>
(富宅市長)	<p>傍聴を許可してよろしいでしょうか。</p> <p>(教育委員から、「異議なし」の声が上がる)</p>
(富宅市長)	<p>それでは傍聴を許可します。</p>
(富宅市長)	<p>それでは、順に会議に入らせていただきます。</p> <p>(新子教育長から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>どうぞ、ご発言ください。</p>
(新子教育長)	<p>長引くコロナ禍、非常に厳しい市の財政状況にあって、柏原、玉手両中学校体育館空調の設置や史跡清浄泉の斜面保護をはじめ、学校教育、社会教育ともに多くの予算を割いていただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>教育は市政の根幹でございます。柏原市の未来を担う子どもたちに、安全・安心な学習環境を整備できるよう、また、学びを必要とする人に学習環境を整備できますよう、柏原市として変わらぬご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>
(富宅市長)	<p>ありがとうございます。子どもたちのためにこの間予算を割かせていただきました。</p> <p>この総合教育会議で出たご意見を十分に参考にさせていただきながら進めさせていただいています。</p>

	<p>この総合教育会議は、教育施策の方向性を共有させていただき、様々な施策を進め、諸課題の解決に当たっていくため、教育委員の皆様とご議論をさせていただく大変重要な場であると考えております。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりまして、学校生活も一変しましたが、柏原市の教育の発展、そして先ほど教育長からもございました、柏原市の未来を担う子どもたちの明るい未来のために、引き続き学習環境をきっちりと整えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>(1) ICT機器の運用状況について</p> <p>(富宅市長) それでは、まず議題の(1)「ICT機器の運用状況について」でございます。令和2年度にGIGAスクール構想を実現するべく、児童生徒一人一台のタブレットPCや、プロジェクター、高速インターネット回線などを整備いただきました。整備から半年あまりが経過しましたが現状の運用についてはどのような状況でしょうか。</p> <p>(山崎委員) GIGAスクール構想により整備したタブレットPCについては、現在各学校において、子どもたちが文房具のように日常的に活用する機会を設けております。例えば、授業支援ソフトを活用し、子どもたち各々のタブレットPCの画面をプロジェクターで教室前方に全員分映し出して、意見や調べた内容などを共有することや、容易にやり直しができるというデジタルの特性を生かし、子どもたちが試行錯誤をくり返しながら理解を深めるという活動を取り入れるなど、ICTならではの教育活動が展開されるようになってきております。</p> <p>(富宅市長) ありがとうございます。しっかりと日常的に活用いただけているということで、私も嬉しく思っております。新型コロナウイルス感染症は現在小康状態とはいえ、いわゆる第6波の感染拡大によっては、また臨時休業等を強いられるかもしれません。子どもたちは家庭での使用は慣れていないと思いますが、そういった時の対策は何か講じられているのでしょうか？</p> <p>(田中委員) 各学校では、臨時休業等の緊急時だけでなく、日常的な活用の一環としてタブレットPCの持ち帰りも始めております。タブレットPCを用いた家庭学習は、学習支援ソフトにより教員から指示された課題に取り組むことを基本としています。分からないことがあれば教員にメッセージを送ったり、教員がそれに対して返事をしたりすることが可能になっています。</p>
--	---

	(近藤委員から発言を求める声あり)
(富宅市長)	はい、近藤委員お願いします。
(近藤委員)	子どもたちは教員から与えられた課題以外にも、自分の興味のある教科や分野、まだ習っていない単元についても解説資料を読みながら自学自習を進めることもでき、たとえ登校ができない状況になったとしても、学校での学びが継続できる環境を整えております。
(富宅市長)	ありがとうございます。子どもたちの学びが途切れないようにしっかりしていただいているようですので引き続きよろしく申し上げます。 また、コロナ禍において、「新しい生活様式」として、市の業務でもウェブ会議やオンライン説明会が一般的になってきておりますが、そういった活用についてはどのような状況でしょうか。
(西村委員)	はい。教員に向けた研修においても「ズーム」や「マイクロソフトチームズ」を活用して開催しておりますし、今年8月は、例年リビエールホールにて実施している「児童生徒会サミット」をオンラインにて開催いたしました。市内15校の子どもたちが、それぞれの学校にいながら、各学校の「よりよい仲間づくりに向けた取組み」の発表を行い、第2部では中学校の生徒が「いじめをなくすために取り組むこと」についての議論を活発に交わしました。11月には2年ぶりに教育月間全体会が開催され、ICT推進のモデル校2校の教員から、これまでの実践報告がありました。工夫された活用方法が紹介され、参加した教員にとって大きな刺激になったと思われまます。
	(新子教育長から発言を求める声あり)
(富宅市長)	はい、新子教育長お願いします。
(新子教育長)	ICT機器についてはかねてより、使うことが目的とならぬよう、教員にとって「教具」の一つとして、児童生徒にとっては「文房具」の一つとして活用するよう努めてまいりました。 ICT機器の進歩は日進月歩でありますので、利用する教員、市教委のスキルも高めるため引き続き講習会や研修、活用事例の交流などを実施し、全体的にスキルアップして、より一層有効活用できるよう取り組んでまいります。
(富宅市長)	ありがとうございます。教育長がおっしゃったように、使う事が目

	<p>的ではなくて、やっぱり今まで培われてきた教育実践にICTをうまく取り入れて、子どもたちだけでなく、先生の皆様の力も最大限に引き出せるよう取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>それから一つ、ICTが契機となって、その先にある学力向上へも個人的には繋がると思いますし、私の学生時代を振り返っても、そういった環境が整っていればと思うこともあります。そういった意味でも副産物として学力向上へ繋がっていけば嬉しいなと思っております。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>(2) いわゆるコロナ禍における学校運営について</p> <p>では、次に議題(2)の「いわゆるコロナ禍における学校運営について」に移りたいと思います。長引くコロナ禍において、今年度は臨時休業など無く学校運営ができたことについては、学校において感染症対策に取り組んでいただいた結果だと思えます。</p> <p>感染防止はもちろん重要ですが、運動会、修学旅行等の子どもたちも楽しみにしているイベントについても、中止せざるを得ない状況になるなど、子どもたちにとって貴重な体験や経験を奪う形になることが多かったようにも感じますが、今年度についてはどういった状況だったのでしょうか。</p>
<p>(山崎委員)</p>	<p>各学校では、感染症対策を講じる必要がある中ではありましたが、教育効果や子どもたちの心情を考慮し、可能な範囲で工夫した学校行事を行うことができました。</p> <p>体育大会につきましては、学年ごとに時間や日を分けて行う等の工夫をして実施いたしました。</p> <p>修学旅行につきましては、時期の延期や場所を変更することにより、市内全校で実施できております。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>ありがとうございます。開催するために様々な工夫をしていただいたということで、子どもたちはもちろんですが、ご家族にとっても本当に喜ばしいことであったと思っております。これからも昨年のような我慢を強いられるだけの生活やイベントの中止などにならないようにできるだけ配慮や対策などお願いします。</p> <p>また、学校現場において感染症対策についてはどのような対策をされているのでしょうか。現在の状況を教えていただけたらと思います。</p>
<p>(田中委員)</p>	<p>学校現場における感染症対策ですが、子どもたちが安心して学習活動に取り組むことが出来るよう、学校では最新の情報を取り入れながら感染症対策に取り組んでおります。</p>

	<p>飛沫による感染リスクが最も高いことから、日常生活において、マスクを着用することはもちろんですが、給食をいただくときも、同じ方向を向いて黙って給食を食べる、いわゆる黙食に取り組んでおります。</p> <p>(近藤委員から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>近藤委員、お願いします。</p>
(近藤委員)	<p>毎朝の健康観察、こまめな手洗い、手指消毒等、子どもたちが新しい生活様式を身につけるよう、学校現場では、細やかな指導を積み重ねているとお聞きしています。</p> <p>また、児童生徒への指導だけでなく、大勢が共通して触れる箇所、例えば水道の蛇口や階段の手すりなどは、スクールサポートスタッフによる、こまめな消毒作業が行われているとお聞きしています。教職員がこれらの作業を担うとなると、教育活動や行事を行う中での感染対策等の通常業務に加えて、相当な負担がかかってしまいますので、各校へのスクールサポートスタッフの配置は、引き続き必要だと思っております。</p>
(富宅市長)	<p>ありがとうございます。大阪府内でも新しい変異株であるオミクロン株の感染者が確認されていますので、引き続きしっかりと取り組んでいただきますようお願いいたします。</p> <p>長引くコロナ禍において、色々な制約や制限がある中での学校生活となっておりますので、子どもたちの精神的な影響、これを非常に心配しております。不登校の児童生徒が増加しているというような事実は今のところございませんでしょうか。</p>
(西村委員)	<p>文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によりますと、全国の不登校児童生徒は増加傾向にあり、とりわけ令和2年度の調査では、過去最多になることが分かりました。文部科学省では、その背景として、新型コロナウイルスの流行で学校が一斉休業になったことや、慣れない自粛生活などによって生活環境が大きく変化したことの影響を受けたのではないかとの分析がなされています。</p> <p>(山崎委員から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>山崎委員、お願いします。</p>

<p>(山崎委員)</p>	<p>本市の小中学校におきましても、不登校の児童生徒数は増加傾向にあり、令和元年度は、小中学校を合わせて86名でしたが、令和2年度は99名となっております。ただ、過去5年間の推移を見ますと、令和2年度の増え方に大きな特徴はございませんでしたので、教育委員会といたしましては、新型コロナウイルスが大きく影響したものとは認識しておりません。しかし、不登校は、その要因について特定することが難しいため、新型コロナウイルスの影響が一因となって、生活リズムの乱れや登校意欲の低下などが生じ、結果的に不登校につながった児童生徒もいるのではないかと考えております。</p> <p>(田中委員から発言を求める声あり)</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>はい、田中委員お願いします。</p>
<p>(田中委員)</p>	<p>不登校への対応につきまして、教育委員会では、不登校傾向のある児童生徒の「早期発見」と教員の意識を高めるために、毎月5日以上欠席した児童生徒の状況について報告するよう、各学校に義務付けております。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーはもとより、個別のケースに応じて、福祉等の関係機関とも連携し、学校における不登校児童生徒への対応を支援しています。</p> <p>また、学校に登校することが困難な児童生徒が通うことのできる、教育研究所内の適応指導教室では、一人ひとりの学力保障を行うほか、社会性を身につけるための少人数活動や支援ボランティアを活用した家庭訪問の実施などを行い、不登校児童生徒に寄り添う支援に取り組んでいるところであります。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>ありがとうございます。今後もきめ細かい取組みをぜひともよろしくお願いします。教育委員の皆様もそれぞれのお立場でこのコロナ禍における学校運営について、様々なお考えがあらうかと思えます。お一人ずつ頂戴してもよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。</p>
<p>(山崎委員)</p>	<p>では私からでお願いいたします。去年の3月、国の要請があり春休みまでの学校の臨時休業が始まり、その後も休業を続けざるを得なくなった時、これは本当に大変なことになったと思いました。</p> <p>学校に登校できないことにより、通常の教育課程が実施できないだけでなく、子どもの早寝早起きなどの基本的な生活習慣が乱れたり、給食がなくなることにより食生活が不十分になったりするなど、心身の発達に大きな影響を与えるのではないかと。また、共働きの家庭や単親家庭では仕事を休まざるを得なかったり、多くの保護者には、子育ての負担やストレスが増加するのではないかなど、不安は尽きません</p>

	<p>でした。</p> <p>その後、普通登校が始まり、対面での授業が再開されましたが、現状のコロナ禍での学校運営は本当に厳しいものがあると思っています。</p> <p>幸い、柏原市では先ほどもありましたように、GIGAスクール構想でいち早く一人一台のタブレットPCを配付し、サポート人材も配置するなど、教育に多くの予算をつけていただき、大変うれしく思っています。こういった機器を使うことにより、多くのことが可能になりました。</p> <p>また、感染拡大のリスク低減のため、手洗い、うがい、マスクの着用、換気などを行うことはもちろん、大きな声で話したりする活動や対面での活動を減らす必要もあります。体育大会や文化祭、校外活動、修学旅行などの学校行事、部活動なども、十分配慮して実施することが大切です。</p> <p>制約の多い学校運営です。いずれにしても、医学の進歩により、ワクチンの接種や特効薬の開発が進み、コロナが学校教育に影響しない時が早くきてほしいと思います。</p> <p>学校は集団での学習活動を行う場であり、その時が来たら、子どもたち皆が知、徳、体の調和のとれた発達ができるよう学校教育を再構築しなければいけないと思っています。</p> <p>(田中委員から発言を求める声あり)</p> <p>(富宅市長) はい、田中委員お願いします。</p> <p>(田中委員) 運動会、修学旅行等のイベントについてですが、児童・生徒にとって学校行事や部活動等は学力向上を目的とする授業とは異なり、対人関係や集団での協調性、指導力など培う重要なものであり、コロナによる影響で大人へと成長する過程での人間形成が疎かにならないかと心配しております。また、対面ではないオンライン授業も同様の懸念があります。</p> <p>学校現場における感染症対策については、これまで学校において対策をいただいているとは思いますが、部活動や宿泊を伴う修学旅行等でのクラスター防止対策等に不安はあります。現在は感染者数が減少傾向にありますが、海外、日本もそうですけれども、オミクロン株の流行も出てきております。油断をせずに感染症対策に努める必要があると思っています。</p> <p>また、先ほどもお話しましたが、コロナ禍における不登校についてですが、不登校の児童生徒数は増えてはいるものの、不登校の理由は非常に複雑で、様々な要因が考えられますので、直接それがコロナ禍</p>
--	--

	<p>によるものとは判断できない状況かと思えます。ただ児童生徒にも多くの制限、制約があるのも事実ですので、引き続ききめ細やかな対応をしていく必要があると思えます。</p> <p>その他にもコロナの影響での学力低下は観られるか、学校で働く先生方の体調・勤務状況や意欲等についての変化はないのか、学校運営における教職員の協力体制はどうなっていくのか、心配は尽きませんが、ひとつひとつ課題に取り組んでいかなければならないと考えております。</p> <p>(近藤委員から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>近藤委員、お願いします。</p>
(近藤委員)	<p>家ではこもってばかりの毎日ですが、学校生活では各学校が様々な工夫を凝らしながら、子どもたちが楽しみにしている行事を一通り行ってくれていることを感謝しています。</p> <p>制約が多い中で先生方と一緒に考えながら進めていると聞きます。そういった経験もできていることを心強く思っています。</p> <p>家庭に向けての連絡も考えられています。学校へ出向くことが難しい中、一部の説明会では学校ホームページから動画で見られるようしてくれている学校があります。いつでも見られるので助かります。</p> <p>また、市内全学校で使われている、メールサービスの「はなまる連絡帳」では学校の様子も発信してくれていて、楽しくもありますし、様子がわかることの安心感もあります。</p> <p>急な連絡等も多くあったこの時期に学校からの発信方法が多様であったことは双方にとって大きなメリットだったと思えます。先生方の仕事の一助になるよう活用していただきたいと思います。</p> <p>(西村委員から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>それでは西村委員、お願いします。</p>
(西村委員)	<p>コロナ禍におきましては、子どもたちにとって学校の存在とは何かということを考えさせられ、また地域における多面的な役割を担っていると再認識した機会であったと思えます。</p> <p>今後の動向はオミクロン株の流行によりまだ不確定であり、現状の感染症対策は継続せざるを得ませんが、工夫しながら教育活動は停止しない努力が必要だと思えます。そのうえで、今まで慣例として実施していたけれども、学習者主体の視点を強く意識したうえで再考し、その活動は本当に必要か検証しながら取り組んでいくべきだと考えて</p>

	<p>います。</p> <p>そして、コロナ禍の影響が今後どのように出てくるか、長期的な視点を持っておく必要性もあります。特に不安感、ストレスを受け続けることで、心も体も何らかの影響を受けている子どもたちがいます。例えばマスクをすることで、口腔やコミュニケーションの発達が遅れたり、肥満が微増していたり、漠然とした不安や生活リズムが崩れたことで心身の調子を崩してしまった子どもや、登校しにくくなった子どもは決して少なくありません。</p> <p>そのためには、学校は子どもに携わる機関と連携しながら学びをさらに多様化させることで受け皿を広げたり、またデジタル化によって得られたデータを分析、活用して、社会全体で子どもの成長を把握していくことが望むべきと考えます。</p> <p>(新子教育長から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>はい、新子教育長お願いします。</p>
(新子教育長)	<p>昨年2月末より全国の学校が一斉に臨時休業となって以来、私が一貫して言い続けていることは「安心・安全」であります。</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況は、今、日本ではやや小康状態ではありますが、世界に目を向けますと、再度爆発的な感染が広がっている国もございます。またワクチン接種が進んだとはいえ、ブレークスルー感染というワクチン接種してもなお感染するというケースも出てきております。そして何より日本ではまだ12歳未満の児童はワクチンを接種することもできない状態であり、最悪の場合は命の危険もある感染症であることを考えますと、私はやはり「安心・安全」を最優先にして学校運営を行うべきであると考えております。</p> <p>確かに感染症対策により、制限される教育活動はあると思いますが、これまでも教員が「その中でできることは何か」と知恵を絞り、安全を確保した上でできる活動を数多く実施してきました。それこそが専門職である教員の力の見せ所だと思います。</p> <p>幸い同じタイミングで一人一台のタブレットPCも整備され、互いに接触することがなくても、意思の疎通や状況の確認ができる環境が整いました。今後再度感染が拡大するようなことがあったとしても、それらを有効に活用しながら、「安心・安全」かつ子どもたちの学びつなぐりを止めることがないような学校運営を私は望みます。</p>
(富宅市長)	<p>はい、ありがとうございます。各委員、そして教育長から様々なご意見、そしていろんな角度から発言頂いてありがたく思っております。どうか皆様には引き続き、学校や子どもたちのためにたくさんのご意</p>

	<p>見をいただけたらと思っておりますし、様々なご意見をいただいた事に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。</p>
(富宅市長)	<p>(3) 支援教室について</p> <p>それでは次に議事の(3)「支援教室について」であります。柏原市内の出生率の減少によりまして、児童生徒数は減少傾向にあると聞き及んでおりますが、その中で支援学級入級児童・生徒数は年々増加傾向であると聞いております。その現状をお聞かせいただけますでしょうか。</p>
(近藤委員)	<p>柏原市内の児童生徒数は減少傾向にありますが、支援学級入級児童・生徒数は年々増加傾向にあり、令和3年度も20名の増加がありました。増加に伴い、障がいの状況も多様化し、適切な支援教育のためにも関係機関との連携は重要となっています。</p> <p>(西村委員から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>はい、西村委員お願いいたします。</p>
(西村委員)	<p>その中でも医療機関との連携は、特に重要となっています。柏原市立病院はもちろん、府下の医療機関との連携を行っています。障がい状況をアセスメントする際、個別の指導のあり方の検討の際、障がいによっては服薬の効果を検討する際など、様々な場面で医療機関や主治医とカンファレンスを持っています。これにより児童・生徒の個別の課題に対して学校における適切な指導を行うことにつながっています。また医療的ケアが必要な児童・生徒については、適切な医療的ケアのアドバイスを受けるとともに、コロナ禍における対応についても医療機関と連携することで、学校で安心して過ごすことにつながっています。</p>
(富宅市長)	<p>ありがとうございます。先生方にとっては専門的な知識も必要になってくるかと思えます。子どもたちが学校生活を快適に過ごしていけるように今後も医療機関などと連携を密にさせていただいて、きめ細やかな対応をお願いします。それでは、議題4に移らしていただきたいと思えます。</p>
(富宅市長)	<p>(4) 教員について</p> <p>議題(4)は「教員について」であります。ここ数年、毎年のように</p>

<p>(山崎委員)</p>	<p>に教員に対しての議題が出ておりますが、全国的に教員の欠員が深刻な問題になっている中、管理職を希望しない先生が増えているというようなお話をお聞きしております。本市ではどのような状況でしょうか。</p> <p>はい。市長がおっしゃいましたとおり、全国的にも管理職を希望する教員が減少傾向にあり、大阪府内では教頭のなり手が少ないという情報もございます。幸い、本市においては、管理職が不足しているという状況にはないようですが、将来の管理職候補として、指導主事や首席の育成に取り組んでいるとお聞きしています。</p> <p>(田中委員から発言を求める声あり)</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>田中委員お願いします。</p>
<p>(田中委員)</p>	<p>はい。その一方、課題もございまして、全国的に、管理職に占める女性の割合は、中学校、高校は特に低いのですが、本市においても同様の傾向が見られることから、今後、中学校における女性管理職の割合を高められるように、所属長による声かけの工夫など、必要になるかと感じております。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>なるほど。全国的に管理職希望者の減少、また、管理職の女性の割合が少ないということではありますが、本市でもここも課題になるという認識をいたしました。管理職を希望する先生が減少していることについて、何か経験や年齢など関係はあるのかなと思いますし、例えば先生方が「もう少し経験を積みたい」あるいは、「管理職になる年齢に達してない」と思われているのだとか。何かそういった考えが影響しているものなのでしょうか。</p>
<p>(近藤委員)</p>	<p>全国的な傾向といたしましては、大量採用されたベテラン教員の退職に伴い、若年層の採用が増えることで、平均年齢が低下する傾向がございます。本市においても、20代30代の教員が小学校では58%、中学校では52%と経験の浅い教員が増えているとのこと。市といたしましては、初任者への研修に学校と共に取り組むとともに、OJTなどを現場に推進することで、教員の育成に取り組んでいるとお聞きしています。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>ありがとうございます。先生方の若年層が増えている事も関係しているのかもしれないですね。若い先生が多くなるということは、育成など現場では大変ご苦労されていることと思います。先ほど、OJT</p>

<p>(西村委員)</p>	<p>を現場に推進されているとお聞きしました。実践形式の研修はとてもいい経験になると思います。例えばどんな取り組みをされているのか詳しくお聞かせいただけたらと思います。</p> <p>教職員は、子どもたちの心身の発達に関わり、人格形成にも影響を与える重要な存在であることから、子どもや保護者の信頼や尊敬に値するよう絶えず研究と修養に努め、職務に必要な資質・能力を向上させなければなりません。とりわけ経験の浅い教員については、教員として必要な基本的な指導方法や子どもの理解、保護者への対応の仕方等、身につけなければならないことが沢山あります。そのため学校では、先輩教員による日常的なOJTの推進により指導力向上を図っているところでもあります。教育委員会としましても、初任者及び2年目教員に対して、法定研修に加えて、市独自の研究授業を行うことにしており、全ての授業に指導主事が参加し、指導・助言に努めているところです。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおり先生の指導力というのは子どもたちの学校生活や人格形成にも直結すると思っています。義務教育期間に限りませんが、子どもたちにとっては重要な時期だと思いますので、引き続き若い先生方の指導力向上にむけた指導・助言をお願いします。</p> <p>それでは、次の議題にまいります。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>(5) 学校施設の老朽化について</p> <p>(5)「学校施設の老朽化について」でございます。新年度予算を作成するにあたりまして、学校関係の施設修繕の項目が多く挙がっていることは私も把握しておりますが、現状について、委員の皆様のご感じでおられることなどお聞かせくださいますようお願いいたします。</p>
<p>(山崎委員)</p>	<p>柏原市では、小学校9校、中学校6校を有しており、どの学校も建築から年数の経った建物が多くあります。</p> <p>先日の本会議でも教育委員会より答弁させていただいておりますが、今後40年間にかかる改築等の費用総額は約423億円となり、1年あたり10億を超える費用が必要となります。今後、さらなる増加が想定されますが、学校現場からは、様々な施設改修や整備の要望があがってきております。</p> <p>ただ、その全ての要望に応えることは、不可能であると思いますので、学校施設整備にかかるコストの縮減や平準化を図ることは必要不可欠と考えております。</p>

	<p>これまでも富宅市長におかれましては、学校環境の改善や充実に関する施策に対する予算措置に対して理解を示していただいておりますが、今後一層、学校施設の老朽化が進むことから、ぜひとも教育委員会と共に柏原市の児童生徒達のために充実した学校環境の整備にお力を発揮していただきますよう、お願いしたいところです。</p> <p>(田中委員から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>では、田中委員お願いします。</p>
(田中委員)	<p>児童生徒の数が減ってきておりましても、35人学級ということでクラス数は増えたり、また、支援学級の児童も増加傾向にあることから、学校を再編して学校施設の整備ということも難しいところがあるかと思えます。ただ、このまま、全ての学校を児童生徒が安全に学校生活を送れる学校環境のまま、何十年も先まで維持できるか、というと、実際難しいところもあるかと思えますので、再編整備についても検討にはいる時期が来ているのではないかと考えております。</p> <p>(近藤委員から発言を求める声あり)</p>
(富宅市長)	<p>では、近藤委員お願いします。</p>
(近藤委員)	<p>数年にわたり、市長が推し進めてくださっております、体育館空調や洋式トイレ改修工事など、学校環境は、着実に改善されている面がございます。児童生徒はもとより、保護者の方からも期待のお声を聞いております。現場の教職員や保護者、児童生徒の声は様々で、全てを受け入れることはできませんが、優先順位をつけて、学校の環境整備に取り組んでいっていただきたいと思えます。</p>
(富宅市長)	<p>ありがとうございます。私もいろいろな学校を訪問させていただく中で、子どもたちが学ぶ環境であります学校施設の老朽化については、実際目でも見ておりますし、児童生徒が安全かつ快適に学校生活を送るための環境整備について、これまでも力を入れてきました。</p> <p>一方で、本市の公共施設は全般的に大規模修繕等が必要な状況になっておりますことから、公共施設管理計画を立てまして、40年後の人口とそれに伴う財政状況等も鑑み、総面積の21%削減を目標としております。この公共施設のあり方の見直しを図っているところでございます。</p> <p>その中において、子育て支援施設と学校教育施設、これについては公共施設全体の55%程度を占めている状況であります。そういった</p>

	<p>ことから子育て支援施設関係における公立保育所、そして幼稚園を統合し、認定こども園への再編を進めたところであります。</p> <p>ただ、学校教育施設につきましては、法改正により35人学級となり、適正規模・適正配置基本計画の見直しも進められているということです。先ほど山崎委員がおっしゃられていました、必要となる多額の費用負担を含めて、庁内関係部局で情報を共有し、全体として施設のあり方の検討を図るよう指示しておりますので、今後出てくる方向性等については、どうかご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>(6) 教育振興基本計画について</p> <p>(富宅市長) それでは、次の議題に参ります。(6)「教育振興基本計画について」、現在のものが今年度で最終年度だったと記憶していますが、来年度以降の計画についてはいかがでしょうか。</p> <p>(新子教育長) 市長がおっしゃったとおり、教育委員会では、柏原市の教育の羅針盤となる「柏原市教育振興基本計画」を平成26年度に策定し、計画の前期・後期・改定期にわたる8年間を通して、さまざまな施策に取り組んでまいりました。この基本計画の実施期間が、令和3年度に終了することから、このたび、社会情勢の変化や国の動向、また、これまでの本市の教育施策の取組状況や課題を踏まえて、第2期となる「柏原市教育振興基本計画」を策定してまいりたいと考えております。</p> <p>これからの時代に本市の教育がめざす方向性についてお示しし、実施すべき方策を具体的に進めていくことを目的に、現在、作成を進めています。</p> <p>年明けの2月頃にパブリックコメントを実施いたしまして、令和4年度の策定をめざしているところでございます。</p> <p>(富宅市長) ありがとうございます。先ほど教育長から教育の羅針盤というお言葉がありましたが、本当に本市の教育の根幹となる計画でありますので、十分に議論し、様々な意見も参考にしながら慎重に策定いただきますようお願いいたします。</p> <p>(7) その他</p> <p>(富宅市長) それでは議事の(7)「その他」についてですが、皆様、何か案件等がございますか。</p> <p>(教育委員から、「なし」の声があがる)</p>
--	--

<p>(富宅市長)</p>	<p>特にないようです。最後に事務局より何かありますか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>【その他・会議日程について】 今年度の定例会は、これで終了いたします。 今後につきましては、ご審議いただく案件が生じた際に、改めて開催の日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>(富宅市長)</p>	<p>特に、ご意見がなければ、今後、会議の開催が必要となった際に、事務局の方であらためて日程の調整をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。 それでは、本日の議事は以上をもって終了し、これで閉会とさせていただきます。 年末のお忙しい中、そして寒い日にも関わらずご出席いただきまして本当にありがとうございました。</p>